

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6042253号  
(P6042253)

(45) 発行日 平成28年12月14日 (2016.12.14)

(24) 登録日 平成28年11月18日 (2016.11.18)

(51) Int. Cl.

F I

A 6 1 L 9/12 (2006.01)

A 6 1 L 9/12

A 0 1 M 1/20 (2006.01)

A 0 1 M 1/20

D

B 6 5 D 83/00 (2006.01)

B 6 5 D 83/00

F

請求項の数 3 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2013-72780 (P2013-72780)  
 (22) 出願日 平成25年3月29日 (2013.3.29)  
 (65) 公開番号 特開2014-195570 (P2014-195570A)  
 (43) 公開日 平成26年10月16日 (2014.10.16)  
 審査請求日 平成27年9月30日 (2015.9.30)

(73) 特許権者 000006909  
 株式会社吉野工業所  
 東京都江東区大島3丁目2番6号  
 (74) 代理人 100147485  
 弁理士 杉村 憲司  
 (74) 代理人 100156867  
 弁理士 上村 欣浩  
 (74) 代理人 100179947  
 弁理士 坂本 晃太郎  
 (72) 発明者 中村 弘幸  
 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会  
 社吉野工業所内

審査官 松井 一泰

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 揮散剤容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内部に揮散剤を収容し、底部、胴部、肩部、及び口部を有するボトル状の容器本体と、  
 倒立状態とした前記容器本体に下方から被さり、該容器本体の前記口部及び前記肩部  
 を覆うカバーと、を備えた揮散剤容器であって、

前記カバーの側壁は、ヒンジを介して連結する側壁蓋部を有し、

前記側壁蓋部は、該側壁蓋部の少なくとも一部を全周にわたって覆うカバーフィルムに  
 よって、外側への揺動変位が阻止され、

前記側壁蓋部の内面に、前記カバーの内側に向かって下方に傾斜する傾斜部を前記容器  
 本体の肩部に当接させて、該容器本体を下方から支持する一方、前記カバーフィルムを除  
 去して該容器本体を押し込むことで、該容器本体の胴部を該傾斜部に沿わせて該側壁蓋部  
 を外側へ揺動変位させる支持部を設けた、ことを特徴とする揮散剤容器。

【請求項 2】

前記容器本体が、前記口部を封止する中栓を備え、

前記カバーの底壁に、前記中栓に向かって立設された、容器本体の押し込みに伴って、  
 中栓を開封させる突起を設けた、請求項 1 に記載の揮散剤容器。

【請求項 3】

前記突起の外側に、容器本体の開封に伴い、注出させた内容物を含浸させる揮散部材を  
 設けた、請求項 1 または 2 に記載の揮散剤容器。

10

20

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、揮散剤容器に関し、特には、容器本体を開封し、揮散剤を揮散させる状態とするための操作を簡易化するとともに、開封状態にあることを外観から容易に確認可能にしようとするものである。

**【背景技術】****【0002】**

従来、芳香剤等の揮散剤を内部に収容した容器本体を、倒立した状態で使用する揮散剤容器として、例えば特許文献1に記載されるようなものが知られている。このような揮散剤容器は、開封して使用する際、容器本体の口部側に設けられているカバー等を容器本体から一旦取外し、容器本体の開封操作を施した後に、再度、カバー等を取付けることを必要とするものである。

10

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0003】**

【特許文献1】実開平7-155367号公報

**【発明の概要】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

20

しかしながら、上記のような揮散剤容器の場合、カバーの着脱、容器本体の開封等の一連の操作の中で、容器の転倒、落下によって内容物が流出したり、使用説明と異なる操作をして不具合が発生したりする虞があった。また、上記のような揮散剤容器は、開封したか否かを外観からでは判断し難いものであった。

**【0005】**

それゆえ本発明は、容器本体を開封し、揮散剤を揮散させる状態とするための操作を簡易化させるとともに、開封状態にあることを外観から容易に確認することができる揮散剤容器を提供することを目的とする。

**【課題を解決するための手段】****【0006】**

30

上記課題を解決するため、本発明に係る揮散剤容器は、内部に揮散剤を収容し、底部、胴部、肩部、及び口部を有するボトル状の容器本体と、倒立状態とした前記容器本体に下方から被さり、該容器本体の前記口部及び前記肩部を覆うカバーと、を備えた揮散剤容器であって、前記カバーの側壁は、ヒンジを介して連結する側壁蓋部を有し、前記側壁蓋部は、該側壁蓋部の少なくとも一部を全周にわたって覆うカバーフィルムによって、外側への揺動変位が阻止され、前記側壁蓋部の内面に、前記カバーの内側に向かって下方に傾斜する傾斜部を前記容器本体の肩部に当接させて、該容器本体を下方から支持する一方、前記カバーフィルムを除去して該容器本体を押し込むことで、該容器本体の胴部を該傾斜部に沿わせて該側壁蓋部を外側へ揺動変位させる支持部を設けた、ことを特徴とする。

**【0007】**

40

また、本発明の揮散剤容器は、前記容器本体が、前記口部を封止する中栓を備え、前記カバーの底壁に、前記中栓に向かって立設された、容器本体の押し込みに伴って、中栓を開封させる突起を設けることが好ましい。

**【0008】**

また、本発明の揮散剤容器は、前記突起の外側に、容器本体の開封に伴い、注出させた内容物を含浸させる揮散部材を設けることが好ましい。

**【発明の効果】****【0009】**

本発明の揮散剤容器によれば、容器本体を開封し、揮散剤を揮散させる状態とするための操作を簡易化させるとともに、開封状態にあることを外観から容易に確認することがで

50

きる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 0 】

【図 1】(a)は、本発明の一実施形態に係る揮散剤容器の未開封状態を示す部分断面図であり、(b)は、図 1(a)の A - A 断面図である。

【図 2】(a)は、図 1 の揮散剤容器の開封状態を示す部分断面図であり、(b)は、図 2(a)に示す揮散剤容器の上面図である。

【図 3】(a)は、本発明の他の実施形態に係る揮散剤容器の未開封状態を示す部分断面図であり、(b)は、図 3(a)の B - B 断面図である。

【図 4】(a)は、図 3 の揮散剤容器の開封状態を示す部分断面図であり、(b)は、図 4(a)に示す揮散剤容器の上面図である。

【図 5】図 3 の揮散剤容器の動作を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 1 】

以下、図 1、2 を参照して、本発明の一実施形態に係る揮散剤容器について詳細に例示説明する。なお、本例の揮散剤容器は倒立状態で使用されるものであるため、倒立状態を基準として説明する。

【 0 0 1 2 】

図 1、2 に示すように、揮散剤容器 1 は、カバーフィルム 10 と、容器本体 20 と、カバー 30 と、揮散部材 40 と、中栓 50 とを備える。容器本体 20、カバー 30、中栓 50 は、本例ではいずれも樹脂製とするが、その他の材質を用いることも可能である。

【 0 0 1 3 】

本実施形態において、容器本体 20 は、底部 21、胴部 22、肩部 23 及び口部 24 を有し、内部に揮散剤 R を収容するボトル状をなしている。容器本体 20 は、底部 21 が略正方形をなし、胴部 22 が略長方形の 4 つの側面からなる角壇状をなしている。また、容器本体 20 の口部 24 には、口部 24 を封止する中栓 50 が液密に嵌合されている。中栓 50 は、リング状の環状底面部 51 と、この環状底面部 51 の外周縁部に立設された外筒部 52 と、環状底面部 51 の内周縁部に立設された内筒部 53 とによって容器本体 20 の口部 24 に嵌合している。また、内筒部 53 の上端縁部の内側に張設された天板部 54 によって容器本体 20 の口部 24 が封止されている。天板部 54 は、厚さの薄くなった環状の薄肉部 54a を有し、突起 38 が天板部 54 を貫通する際に、この薄肉部 54a を起点として天板部 54 が破断される。また、本発明において揮散剤 R は特に限定されるものではなく、例えば、芳香剤、消臭剤、除湿剤、又は虫除け剤などの揮散性の液体、または、ゲル状の粒状体等とすることができるが、この例では液体の芳香剤としている。

【 0 0 1 4 】

カバー 30 は、倒立状態とした容器本体 20 に下方から被さり、該容器本体 20 の口部 24 及び肩部 23 を覆っている。また、カバー 30 は、容器本体 20 の胴部 22 を取り囲むように配置される側壁 31 及び、管状の側壁 31 の下端に設けられた底壁 32 を有する。カバー 30 の側壁 31 は、ヒンジ 33 を介して連結する側壁蓋部 34 を有し、この例では、一組の対向する側壁 31 にそれぞれ側壁蓋部 34 が形成され、底壁 32 まで延びて、底壁 32 の一部を形成している。この例においては、側壁 31 に形成された薄肉部分をヒンジ 33 としている。図 1(a) に示す未開封状態の揮散剤容器 1 において、側壁蓋部 34 は、側壁 31 の全周を覆うカバーフィルム 10 によって外側への揺動変位が阻止されている。また、各側壁蓋部 34 の内面には、支持部としての支持リブ 35 が設けられ、その上端に形成された傾斜部 35a を、容器本体 20 の肩部 23 に当接させて、容器本体 20 を下方から支持している。また、傾斜部 35a は、カバー 30 の内側に向かって下方に傾斜しており、これに対応する容器本体 20 の肩部 23 は、傾斜部 35a に略平行に傾斜している。底壁 32 の上面には、揮散部材 40 を介して揮散される揮散剤 R を透過させるための溝 32a が複数形成されている。

【 0 0 1 5 】

カバー 30 の底壁 32 の中央には、上記の中栓 50 に向かって尖頭状の突起 38 が上方に向けて形成されている。突起 38 には、上下方向にわたる複数の凹状（図示省略）が形成されている。すなわち、突起 38 によって破断開封され、容器本体 20 の口部 24 から流出した揮散剤 R は、当該凹状および上記の溝 32 a を介して揮散部材 40 まで移動することができる。なお、溝 32 a に代えて、突条を設けても良い。なお、凹状に代えて、凸条としても良い。突起 38 の高さは、容器本体 20 の肩部 23 と、支持リブ 35 の傾斜部 35 a とが当接した未開封状態で、突起 38 の先端部が中栓 50 の天板部 54 からわずかに離間する程度の高さになっており、容器本体 20 を押し下げて、環状底面部 51 と、底壁 32 が接触した状態では、突起 38 は中栓 50 の天板部 54 を突き破り貫通する。

【0016】

10

また、この例において、カバー 30 は、側壁 31 の内面上端付近に、仮保持凸部 36 を有し、容器本体の胴部 22 の外面には、この仮保持凸部 36 と係合して、カバー 30 に対する容器本体 20 の上方移動を防止する係合凸部 25 を有する。

【0017】

カバー 30 の底壁 32 上には、リング状の揮散部材 40 が配置されている。揮散部材 40 は本例では、例えば不織布などの、液体を吸収し湿潤する部材からなっている。

【0018】

カバーフィルム 10 は、側壁蓋部 34 の少なくとも一部を全周にわたって覆っている。この例では、カバーフィルム 10 は、容器本体 20 の底部 21 の上面から、カバー 30 の底壁 32 の下面まで、容器本体 20 の中心軸 O の周りで周方向に全周にわたって覆っている。これにより、側壁蓋部 34 の外側への揺動変位が阻止するとともに、容器本体 20 がカバー 30 に対して離間方向に移動することを制限している。また、カバーフィルム 10 は、例えば熱収縮フィルムとすることができ、図や文字等の装飾を施すことも可能である。また、カバーフィルム 10 は、ミシン目等を形成することにより、それを起点として、容易に容器本体 20 及びカバー 30 から剥がし取ることができる。なお、図示のカバーフィルム 10 は、容器本体 20 及びカバー 30 に対して隙間を空けて配置されているように示されているが、実際には、カバーフィルム 10 の内面は容器本体 20 及びカバー 30 の外面に接触して配置されている。

20

【0019】

上記構成を有する揮散剤容器 1 は、カバーフィルム 10 を除去しなければ、支持リブ 35 の働きによって、容器本体 20 をカバー 30 に押し込むことができないため、誤って開封されて揮散剤 R が外部に流出してしまう虞がなく、安全に取扱うことができる。また、本実施形態の揮散剤容器 1 は、容器本体 20 の底部 21 の上面から、カバー 30 の底壁 32 の下面まで、すなわち、揮散剤容器 1 の全長にわたって、カバーフィルム 10 によって覆われているため、カバーフィルム 10 の除去前に、容器本体 20 とカバー 30 とが分離する虞がない。したがって、運搬時や保管時における容器本体 20 またはカバー 30 の脱落等を防止することができる。また、揮散剤容器 1 は、カバーフィルム 10 を除去して使用することを前提とするため、カバーフィルム 10 が除去されていない場合には、揮散剤容器 1 が未開封状態であることを外観から容易に確認することができる。

30

【0020】

40

上記構成を有する揮散剤容器 1 を使用する際には、まず、カバーフィルム 10 を除去する。そして、容器本体 20 を、カバー 30 に対して下方に押し込むと、肩部 23 の下方への変位にて側壁蓋部 34 がヒンジ 33 を支点として外側へ開き始め、胴部 22 が傾斜部 35 a に押し当たって、該側壁蓋部 34 を外側へ揺動変位させることができる。また、この容器本体 20 の下方への変位に伴って、容器本体 20 の口部 24 を封止している中栓 50 の天板部 54 が、カバー 30 の突起 38 によって破断され、注出した揮散剤 R が揮散部材 40 に含浸し、揮散を開始する。すなわち、上記構成を有する本実施形態の揮散剤容器 1 によれば、図 1 (a)、(b) に示した未開封状態から、カバーフィルム 10 を除去し、容器本体 20 を押し下げる操作のみによって、図 2 (a)、(b) に示すような、揮散剤 R を揮散させる開封状態にすることができる。したがって、容器本体 20 を開封し、揮散

50

剤 R を揮散させる状態とするための操作を大幅に簡易化することができ、開封操作の途中で起こりうる、容器の転倒、落下によって揮散剤が流出したり、使用説明と異なる操作をして不具合が発生したりする虞も、低減することができる。

【 0 0 2 1 】

また、図 2 ( a )、( b ) に示すように側壁蓋部 3 4 が外側に開くことで、揮散剤容器 1 が開封状態にあることを外観から容易に確認することができる。さらに、側壁蓋部 3 4 が外側に開くことにより、揮散剤容器 1 の内部、特に、揮散部材 4 0 の周囲を流れる空気の流路が形成されるため、新たに空気流路を拡大することなく、揮散剤 R の揮散効果を向上させることができる。

【 0 0 2 2 】

次に、本発明の他の実施形態について、図 3 ~ 図 5 を参照して説明する。

図 3 に示すように、揮散剤容器 1 0 1 は、先の実施形態と同様に、倒立状態とした容器本体 1 2 0 と、容器本体 1 2 0 を下方から支持するカバー 1 3 0 と、外側からこれら容器本体 1 2 0 およびカバー 1 3 0 を覆うカバーフィルム 1 1 0 とを備える。

【 0 0 2 3 】

容器本体 1 2 0 は、底部 1 2 1、胴部 1 2 2、肩部 1 2 3 及び口部 1 2 4 を有し、内部に揮散剤 R を収容するボトル状をなしている。容器本体 1 2 0 は、底部 1 2 1 が略円形をなし、胴部 1 2 2 が略円筒形となっている。口部 1 2 4 の外周面には、雄ねじ部 1 2 4 s が形成されている。また、容器本体 1 2 0 の口部 1 2 4 には、口部 1 2 4 を封止する中栓 1 5 0 が液密に嵌合されている。中栓 1 5 0 は、リング状の環状底面部 1 5 1 と、この環状底面部 1 5 1 の外周縁部に立設された外筒部 1 5 2 と、環状底面部 1 5 1 の内周縁部に立設された内筒部 1 5 3 とによって容器本体 1 2 0 の口部 1 2 4 に嵌合し、内筒部 1 5 3 の上端縁部の内側に張設された天板部 1 5 4 によって容器本体 1 2 0 の口部 1 2 4 が封止されている。

【 0 0 2 4 】

カバー 1 3 0 は、倒立状態とした容器本体 1 2 0 に下方から被さり、該容器本体 1 2 0 の口部 1 2 4 及び肩部 1 2 3 を覆っている。また、カバー 1 3 0 は、容器本体 1 2 0 の胴部 1 2 2 を取り囲むように配置される円筒状の側壁 1 3 1 及び、側壁 1 3 1 の下端に設けられた底壁 1 3 2 を有する。カバー 1 3 0 の側壁 1 3 1 は、ヒンジ 1 3 3 を介して連結する側壁蓋部 1 3 4 を有する。図 3 ( a ) に示す未開封状態の揮散剤容器 1 0 1 において、側壁蓋部 1 3 4 は、側壁 1 3 1 の全周を覆うカバーフィルム 1 1 0 によって外側への揺動変位が阻止されている。また、各側壁蓋部 1 3 4 の内面には支持リブ 1 3 5 が設けられ、その上端に形成された傾斜部 1 3 5 a を、容器本体 1 2 0 の肩部 1 2 3 に当接させて、容器本体 1 2 0 を下方から支持している。また、傾斜部 1 3 5 a は、カバー 1 3 0 の内側に向かって下方に傾斜しており、これに対応する容器本体 1 2 0 の肩部 1 2 3 は、傾斜部 1 3 5 a に略平行に傾斜している。

【 0 0 2 5 】

図 3 ( a )、( b ) に示すように、本実施形態のカバー 1 3 0 は、底壁 1 3 2 の上面から立設する内側壁部 1 3 9 を有する。内側壁部 1 3 9 の内周面には、雌ねじ部 1 3 9 s が形成され、この雌ねじ部 1 3 9 s は、容器本体 1 2 0 の口部 1 2 4 の外周面に形成された雄ねじ部 1 2 4 s に対応している。また、内側壁部 1 3 9 には、高さ ( 軸 ) 方向に延在する 2 本の対向するスリット 1 3 9 a が形成されている。開封後に容器本体 1 2 0 から注出された揮散材 R はこのスリット 1 3 9 a を通って、揮散部材 1 4 0 側に移動する。また、底壁 1 3 2 の上面には、揮散部材 1 4 0 を介して揮散される揮散剤 R を透過させるための溝 1 3 2 a が複数形成されている。また、カバー 1 3 0 の底壁 1 3 2 の中央には、先の実施形態と同様に中栓 1 5 0 に向かって尖頭状の突起 1 3 8 が上方に向けて形成されている。また、カバー 1 3 0 の底壁 1 3 2 上には、揮散材 R を含浸するための、リング状の揮散部材 1 4 0 が配置されている。

【 0 0 2 6 】

カバーフィルム 1 1 0 は、先の実施形態と同様に、容器本体 1 2 0 の底部 1 2 1 の上面

10

20

30

40

50

から、カバー 130 の底壁 132 の下面まで、容器本体の中心軸 O の周りで周方向に全周にわたって覆っている。

【0027】

上記構成を有する揮散剤容器 101 は、図 3 (a)、(b) に示す未開封状態において、容器本体 120 が、カバー 130 の支持リブ 135 によって、下方から支持されている。また、容器本体 120 の口部 124 に形成された雄ねじ部 124s の上面と、カバー 130 に形成された内側壁部 139 の雌ねじ部 139s の下面とが係合しており、容器本体 120 とカバー 130 とが離間する方向の移動が制限されている。なお、この例においては、容器本体 120 とカバー 130 とが離間する方向の移動はカバーフィルム 110 によっても制限されている。

10

【0028】

揮散剤容器 101 を開封して使用する際には、カバーフィルム 110 を除去した後、容器本体 120 をカバー 130 に対して中心軸 O の周りで回転させることで、容器本体 120 をカバー 130 に押し込む（ねじ込む）ことができる。これにより、先の実施形態と同様に、肩部 123 の下方への変位にて側壁蓋部 134 がヒンジ 133 を支点として外側へ開き始め、胴部 122 が傾斜部 135a に押し当たって、該側壁蓋部 134 を外側へ揺動変位させることができる。また、この容器本体 120 の下方への変位に伴って、容器本体 120 の口部 124 を封止している中栓 150 の天板部 154 が、カバー 130 の突起 138 によって破断され、注出された揮散剤 R がスリット 139a、または溝 132a を介して揮散部材 140 に含浸し、揮散を開始する。図 4 (a)、(b) は、容器本体 120 を最大までねじ込み、押し下げた状態を示している。この状態で、側壁蓋部 134 の開く角度は最大となり、空気が揮散剤容器 101 の内部に流入し易くなるため、揮散剤 R の揮散効果は大きくなる。

20

【0029】

本実施形態の揮散剤容器 101 は、先の実施形態で得られる効果に加えて、ねじ込み量を調節することで、カバー 130 に対する容器本体 120 の高さを、任意の位置に設定することが可能となる。これにより、図 5 に示すように、側壁蓋部 134 の開く角度を適宜設定して、揮散剤容器 101 の内部に流入する空気の量を調節することが可能となる。すなわち、揮散剤 R の揮散効果を増大させたい場合には、容器本体 120 をカバー 130 に対して下方までねじ込むことで側壁蓋部 134 を大きく開かせ、逆に、揮散剤 R の揮散効果を低減させたい場合には、容器本体 120 を逆方向に回転させて上昇させることで側壁蓋部 134 の角度を小さくすることが可能となる。

30

【0030】

上述したところは、本発明の実施形態を例示したにすぎず、特許請求の範囲において、種々の変更を加えることができる。例えば、上記実施形態では、支持部を支持リブ 35、135 として示したが、側壁蓋部の内面にリブ以外の凸部を形成したり、別個に成形した部材を取付けたりすることによって、支持部を設けることも可能である。また、上記実施形態では破断開封されるものとした中栓 50、150 は、押込みによって容器本体の内側に向かって外れる蓋のような部材としてもよい。また、先の実施形態の揮散剤容器 1、101 は、上述の支持リブ 35、135 の高さ、傾斜部 35a、135a の傾斜角度等を変化させることで、側壁蓋部 34 の開く角度を所望の角度に設定することができ、揮散効果を適宜、変更することも可能である。

40

【産業上の利用可能性】

【0031】

本発明によれば、容器本体を開封し、揮散剤を揮散させる状態とするための操作を簡易化させるとともに、開封状態にあることを外観から容易に確認することができる揮散剤容器を提供することができる。

【符号の説明】

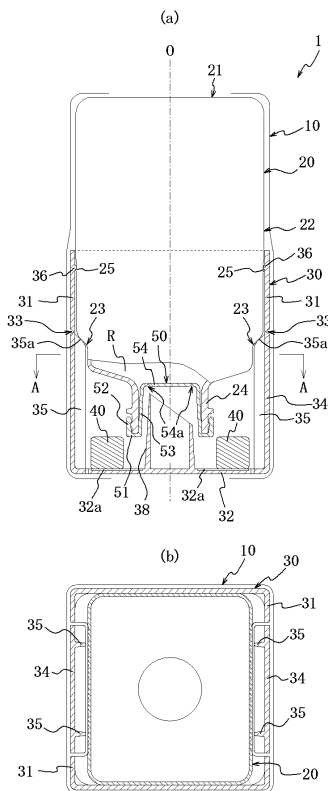
【0032】

1 揮散剤容器

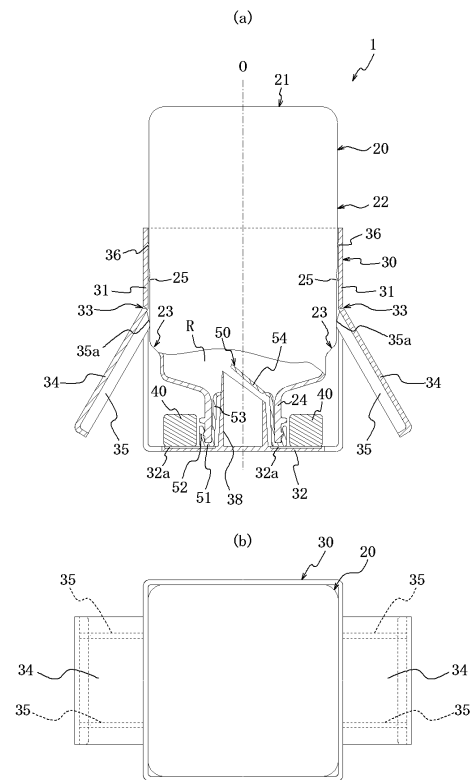
50

- 10 カバーフィルム
- 20 容器本体
- 21 底部
- 22 胴部
- 23 肩部
- 24 口部
- 25 係合凸部
- 30 カバー
- 31 側壁
- 32 底壁
- 32a 溝
- 33 ヒンジ
- 34 側壁蓋部
- 35 支持リブ(支持部)
- 35a 傾斜部
- 36 仮保持凸部
- 38 突起
- 40 揮散部材
- 50 中栓
- 51 環状底面部
- 52 外筒部
- 53 内筒部
- 54 天板部
- 54a 薄肉部
- R 揮散剤

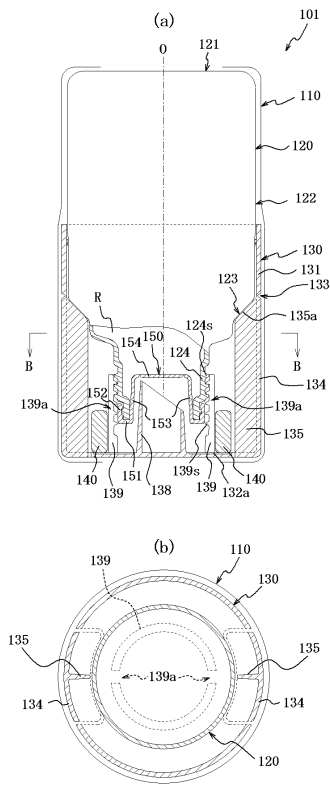
【図1】



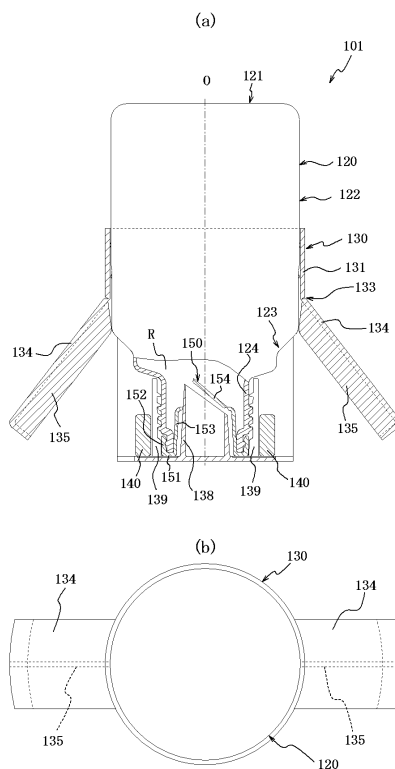
【図2】



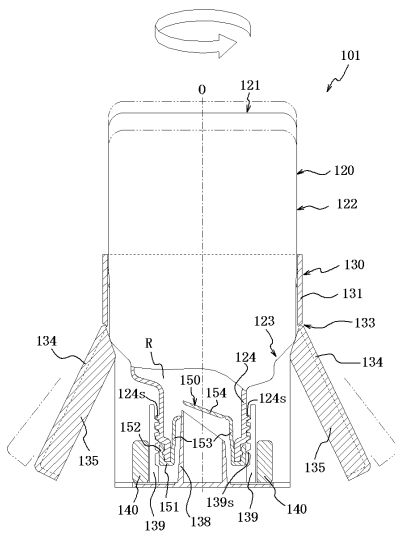
【図 3】



【図 4】



【図 5】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 特開2003-252386(JP,A)  
特開平9-276386(JP,A)  
実開昭56-006444(JP,U)  
特開平7-155367(JP,A)  
特開平7-018716(JP,A)  
登録実用新案第3160753(JP,U)  
実公昭48-026697(JP,Y1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

|      |               |
|------|---------------|
| A61L | 9/00 - 9/22   |
| A01M | 1/00 - 99/00  |
| B65D | 6/00 - 13/02  |
| B65D | 23/00 - 25/56 |
| F17C | 1/00 - 13/12  |